

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071101234
法人名	医療法人 恵光会
事業所名	グループホーム ライフエイド柏原
所在地	福岡県福岡市南区柏原1丁目2-46
自己評価作成日	平成27年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成27年11月25日	評価結果確定日	平成27年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

温かみのある笑顔の絶えないホームづくりを常に考えております。昨年に古くなったキーウィフルーツの木を伐りました。藤棚も剪定し玄関前は明るく開放的になり、皆様方にもきやすい雰囲気になったのではないかと思います。玄関前にあるテラスの上に屋根が付き、お茶会等をしております。スタッフ一同、皆様方が気楽にお見えにいただけるように心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

これまで12年間、地域の高齢者の方々へ地域密着型サービスを提供し、地域社会へ貢献してきた事業所である。看護師の資格を有した職員がおり、母体の医療法人との連携体制も整っている。また、事業所は温かく家庭的で、職員は明るい雰囲気の中で働いており、利用者は安心して健康的な日々を過ごされている。利用者からの様々な要望を実現できるよう取り組んでおり、美容師や理容師の資格を持った職員が利用者の散髪をすることもある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の理念「地域住民の1人としてその人らしく暮らし続けられる事を支援します」を掲げみんなで共有し選挙等希望があれば同行し地域のかたに支えられながら生活している。	職員は利用者がその人らしく暮らせるように支援している。畑仕事が好きな利用者には花壇などへの水やりをお願いしたり、外の雰囲気好きな利用者と一緒に近隣を散歩したりして利用者の状態に合わせた対応をとっており、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本人が散歩の時など自ら声をかけたりかけていただいたりしている。選挙に行くときは会場では地域のかたに案内していただく	運動会や河川清掃などの地域行事へ積極的に参加し、地域住民との交流を図っている。また、グループホーム内の植木の剪定を近隣住民に手伝ってもらったり、駐車場を地域の避難所として提供したりしている。	老人クラブへの声かけや母体法人のシャトルバスの活用など、地域住民の方が気軽に訪問でき、事業所のことを知ってもらえるような取り組みに期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体が医療法人であり2ヶ月1回介護、医療相談を行っている。又推進委員会や家族会で手指消毒が完全にできているかを機械を使いインフルエンザやノロ対策などの勉強会をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	いきいきセンターの方に相談しDVDを借りたり推進会議で意見を聞いたりしている	町内会長や民生委員、近隣住民、行政職員、家族などが参加し、2か月に1回開催している。災害対策、利用者の状況、看取りの報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	いきいきセンターの方に相談しDVDを借りたり推進会議で意見を聞いたりしている	市町村担当者とは、制度改正時や対応困難な事例があった場合に相談をしている。現在、事業所の情報や取り組んでいる内容などを市町村窓口に来られた相談者の方へ提供してもらえるような連携体制を検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在拘束は行っていない	職員は利用者へ「無理強いしない、束縛しない」を念頭に置いて対応している。事業所の扉にはセンサーを設置しており、利用者が外出した時にすぐに気付けるようになっている。外出時には安全に配慮して、すぐ傍に付き添い、頃合いをみて声かけをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内の研修会で、研修会に出席した方の報告を聞いてみんなで共有し、またホーム内の研修会に出席できない人は、報告書を読んで防止に努めています。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	説明資料を準備し契約時説明するとともに必要時には支援できるようにしている。ホーム内の研修会や介護系勉強会などで勉強し又研修の出席者の報告を聞いて共有している。	現在、成年後見制度や日常生活自立支援事業を活用している利用者はいない。問合せ時に対応できるように勉強会などで職員への教育をしている。家族の目に触れる場所へ資料設置を検討している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	変更時説明、納得いただきサインを頂いています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム研修会を月1回開き、意見交換をしています。	家族や利用者からの意見や要望を実現できるよう職員全員で対応している。100歳の誕生日を迎えた利用者や家族と一緒に食事をし、帰りにその場で記念写真をプレゼントするなど、家族から好評を得ている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアプラン作成時、家族の方の意見を聞いています。また本人の希望があればできる限り対応したいと思います。	秋刀魚バーベキューなどの季節行事や重度の利用者への職員配置の変更など、職員からの提案を受けた場合、取り入れられるかを評価・検討し、実践につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表を年3回書いてもらい毎回確認する。又日々働きながら状況を把握して毎月のホーム内研修会で業務改善を行っている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人全体で募集採用しているが年齢や性別等の条件はない採用は利用者のかわりの中で職員の特技や趣味を日頃の業務に生かせるようにしている	母体の医療法人が職員募集・採用の窓口となっている。現在、20代から60代の職員が働いている。趣味や特技を生かした活躍の場があり、明るく生き生きとした職場環境である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム内の研修会で研修会に出席した人の報告を聞いてみんなで共有し、法人全体で接遇目標を設定しホーム内に掲示。朝礼時目標を唱和しスタッフそれぞれが業務の中で遂行している	人権尊重については各部門担当者を設け、職員へ直接教育を行っている。食事の際には献立を丁寧に説明し配膳するなど、利用者を尊重した対応を心がけている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年3回自己評価をしてもらい本人の主張管理者から見た評価をし観察指導している。2ヶ月1回系列施設の勉強会を開催 外部研修の案内で必要な研修に参加し内部に伝達。新人は教育係がおり新人教育プログラムに沿って指導を実施し1か月 3か月で評価を行っている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の施設との毎週1回の話し合いを行い情報交換を行い又2か月1回当番でテーマをきめて研修会を行っている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に面会し初回アセスメントを作成するに当たりお困りごと 要望等をお聞きしている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回アセスメントを作成するに当たり、家族の方より、お困りごと 要望等よくお聞きしケアプランに反映している		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族 担当者(ケアマネージャー ソーシャルワーカー 看護師)と話し合い連携を取り対応している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お茶碗を一緒に洗ったり拭いたり、洗濯物を畳んだり出来る事を一緒にやっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	平均1か月1回家族の方がお見えになる。 その都度状況の説明したり、対応に困った 時昔の事等お聞きし介護に反映している。 週1回ともに外出されたりする。レクレー ションをする時は参加をお願いしている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りに行ったり家族と共に外出して いる	入居前の友人が訪ねてくる利用者もお り、関係性が途切れないよう心がけて いる。お互いに高齢となり、関係継続 が困難な場合にも、利用者の視点に 立って支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者様同士声かけたりお世話しよう とされる。ホールでの席も配慮してい る		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた時はスタッフみんなでお 参りにいきその後も家族の方に電話す る時あればかかってきたりし訪ねて こられたりする 1周忌にお花を送っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	6か月1回は再度アセスメント表を作 成し思いや意向の把握に努め又ミーテ ィングの際毎日ではないが理念にある その人らしくを忘れずみんなで再確認 している	半年毎に介護計画の見直しを実施して おり、利用者の現在の思いや意向を反 映した支援の実現に向けて取り組んで いる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	アセスメントで確認 把握に努めてい る		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日々の介護の中で現状を確認しミーテ ィングで把握し共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを元に家族の方は来所時または電話で意見をお尋ねし主治医には診察時お尋ねしミーティングで職員間で意見を交換しケアプラン作成している	介護計画の原案は利用者の担当職員が作成し、他の職員やケアマネージャーからの意見も取り入れて完成した計画を基に家族へ説明している。3か月に1回はモニタリングを実施し、利用者や家族の意見を取り入れている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護をする時に上がる問題点や日々の状況を記録しミーティングで報告共有している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の付き添いや入居者様の入院中の家族の方から相談などに対応している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	祭りや敬老会等レクリエーションに地域のボランティアの方に踊りや歌を歌っていただいている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本3か月1回定期受診に付き添い受診す。他科受診の場合も希望の科の受診ができるように支援している	病院受診時に家族が同行する場合でも通院介助を行い、利用者の普段の生活状況を説明し、適切な医療を受けられるよう取り組んでいる。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	3人の看護師がおり状態に変化があれば直ちに報告必要に応じ受診する		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時主治医担当部署の看護師やソーシャルワーカーと情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を作り必要に応じ本人 家族に説明し家族と同意書を交わしているホームの見取り介護に関して職員も周知しておりホーム全体で方針を共有している	看取りについては入居時に説明をしている。先日、1名の看取りを行った際には母体医療法人より院長に往診してもらい、訪問看護も利用して、安らかな最期を過ごしてもらえるよう支援を行った。この経験を活かし、他の利用者や家族からの相談に柔軟に対応している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月のホーム内研修会でヒヤリーハットを報告し検討しあいみんなで共有している		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回防災訓練を行い(1回は消防署立ち合い)運営推進委員会で非常時に備え協力をお願いしている	夜間想定も含めて訓練を実施している。消防署は事業所から約6分の距離にあり、非常時には隣接する同法人の関連施設からの応援が得られるなど、協力体制も整っている。	非常時には近隣住民の助けが不可欠であり、事前に非常時の応援をお願いし、承諾してもらえた住民のリストを作成して訓練に参加してもらうなど、協力体制の一層の充実に期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にその人らしくと掲げ人格を尊重した態度接するように心がけているカルテ面会簿にも工夫し外部に人にわからないように配慮している	職員は利用者の羞恥心に配慮したケアを心がけている。また、利用者の人格を傷つけないように言葉かけにも気を付け、日々振り返りをしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出時の食事やおやつメニューをきいたり尿意に合わせて訴えて排泄介助している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事も体調やペースにあわせ無理強いせず食事や睡眠時間を考慮している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪をといたり化粧水を使用する事を援助している。1日着替えを何回もされるが意思を尊重しあえて言葉かけはしない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食時はできるだけ全員参加していただきその都度希望食を聞いている。その他食事のあとかたづけ(お茶碗を洗ったり、拭いたり)食事前後のテーブルを拭いたりしていただいている	食事は3食とも、栄養バランスをよく考え職員が手作りしている。利用者は味見などの手伝いやそれぞれのことに参加されている。利用者の状態に応じて自助具を使用したり、介助を行ったりして食事が楽しめるよう支援している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量を決めてできるだけ飲んでいただけるように、そのままでは飲まない場合はお茶ゼリーやとろみをつけてのんでいただくように工夫している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時 毎食後口腔ケアをし観察している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の希望や時間毎の排泄介助し、できるだけおむつにせずトイレ内で排泄ができるように心がけている。	排泄の自立支援だけでなく、利用者の清潔が保持できるように一人ひとりの状態に合わせた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便のチェックを行い、DRの指示で下剤を調整し又1日1回ヨーグルトを食事に追加している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴介助は曜日は決まっている。希望があれば対応するようにしている	入浴介助の曜日は決まってはいるが、シャワー浴などを臨時的に行って、利用者が清潔な環境で快適に過ごせるように対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠を確認し夜勤者が申し送りをしている。昼夜逆転の方もおられ睡眠薬を処方していただき与薬している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から内容の説明書きをいただいており、毎食後本人の口に入れてあげ飲み終わるまで観察している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時家族のかたのお話を聞き、観葉植物の手入れや家族とお出かけしたり在宅中好きなことを取り入れている(カラオケ等)		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム車でドライブしたり外食したりホーム内のテラスでティータイム等楽しんでいる選挙時も外出介助をしている	スーパーやコンビニエンスストアへの買い物へ同行したり、選挙へ行く意思表示のある利用者に選挙会場の入り口まで付き添ったりして、利用者の希望をかなえられるよう努めている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいが全員預かっている。個々の支払い領収書(現本)すべてと出納帳(コピー)を家族会及び家族来所時お渡している。散歩の途中でコンビニにいき声掛けしお買い物をしている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望がある時スタッフが取次、かかってきた時も速やかにの取り次いでいる。節目節目で家族の方からはがきや荷物が送られてくるのを受け取ったりの支援はしている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンやブラインド等光の調整し季節の祭事の飾りつけをし家庭的な雰囲気を作りあげている。電灯も何段階に調節ができるようになっている	玄関前には広々としたテラスがあり、日光浴や外気浴、お茶会などもできるような開放的な空間である。共用の空間は季節毎の飾り付けがされ生活感にあふれており、利用者はゆったりと過ごされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに利用者様同士が語らえる場所がある。玄関先にテラスがあり時々茶話会をし楽しんでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で愛用していた家具や仏壇等持ってきていただいている。本人が居心地良く過ごせるように配慮している。	仏壇などの入居前から大事に使用していたものに囲まれて過ごされている。部屋の入口には利用者の名前を大きく分かるように掲示し、利用者が戸惑わないように配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており 又廊下やトイレに手すりを設ける。個々の残存機能を活かした支援をしている。トイレや洗面所がわかるように大きく表示している。部屋の間違いがある為名前を表示している		